

林木遺伝資源情報

第2号 - 4 2002.9
独立行政法人 林木育種センター



林木遺伝資源保存林シリーズ No.3

スギ *Cryptomeria japonica* D. Donの林木遺伝資源保存林

林木育種センター 遺伝資源部 織田 春紀・山田 浩雄

1 はじめに

スギは青森県鰺ヶ沢から鹿児島県屋久島までの温帯から暖帯にかけて、広い地域に天然分布している樹種です。このため、それぞれの地域の気象条件等に適応した様々な地域性品種が知られています。特に太平洋側のスギ（オモテスギ）と日本海側のスギ（ウラスギ）とは、生態的、形態的に大きな違いがあります。また、スギは日本国内において、木材生産上最も重要視され、古くから造林され利用されてきた樹種です。このため、昔からの林業地では、再造林の繰り返しにより優れた品種が自然発生的に選択され、多くの栽培品種が作られてきました。

最近では、戦後の精英樹選抜育種事業等の各種育種事業により、約1万本のプラス木が選抜され、次代検定等による再選抜や優れた個体同士による交雑、次世代精英樹の選抜など、組織的なスギの品種改良が急激に進展しつつあります。このような品種改良の進展に伴い、一方では、品種改良に供されている育種母材料の遺伝変異の減少が危惧されています。このため、スギの優良遺伝子群や天然林の保存



図 - 1 スギの林木遺伝資源保存林位置図

が同時並行的に進められています。スギの広範な遺伝変異の保存を目的としている林木遺伝資源保存林の概況を以下に紹介します。

表 - 1 スギの林木遺伝資源保存林の設定箇所数と区域面積

育種基本区	森林管理(分)局	箇所数	面積 ha
東北	東北森林管理局	4	42
	青森分局	2	18
	関東森林管理局	1	3
	計	7	63
関東	東京分局	2	573
	中部森林管理局	1	11
	名古屋分局	2	20
	計	5	605
関西	名古屋分局	1	18
	近畿中国森林管理局	8	393
	四国森林管理局	7	202
	計	16	613
九州	九州森林管理局	5	642
合 計		33	1,923
全保存林に占める割合		9.9%	20.9%

2 林木遺伝資源保存林の概況

スギの林木遺伝資源保存林は、国有林に設定されており、育種基本区別森林管理局（分局）別に設定箇所数と面積を表 - 1 に、設定箇所の位置図を図 - 1 に示します。スギの林木遺伝資源保存林は、青森県西津軽郡鰺ヶ沢町から宮崎県南那珂郡北郷町まで33箇所1,923haの林分に設定されています。

スギの主要な地域性品種と栽培品種の地理的分布を図 - 2 に示します。スギの林木遺伝資源保存林は、地域性品種や栽培品種を含んだ多様な地理的・遺伝的変異をできるだけ保存できるように設定されています。

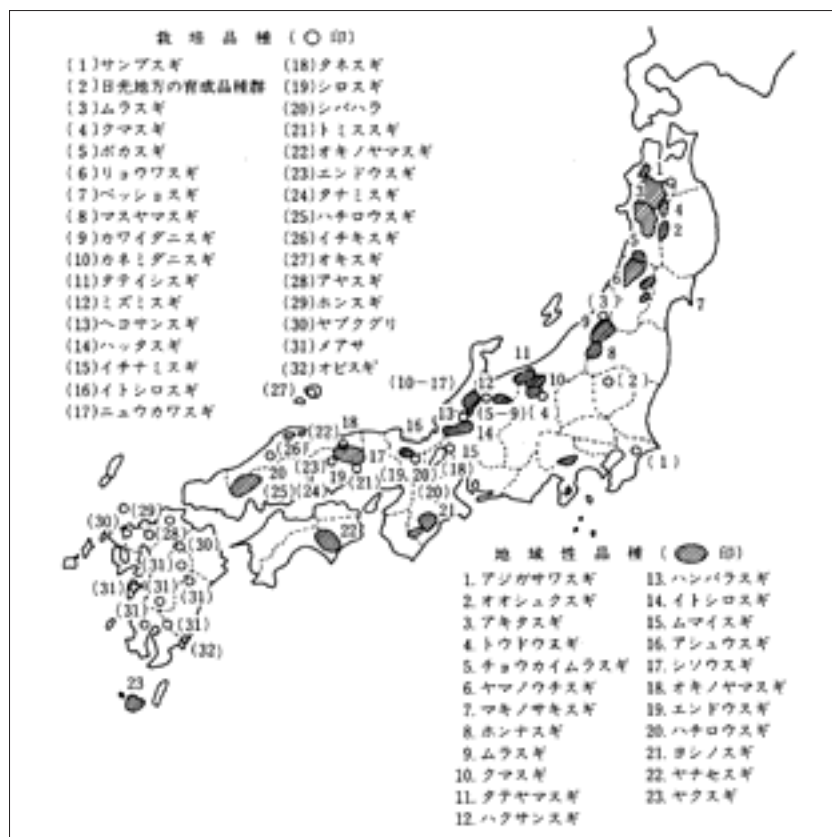


図 - 2 主要な地域性品種と栽培品種の分布
(宮島 寛, 新版スギのすべて(坂口勝美監修), p.134, 全国林業改良普及協会, 1983)

[お知らせ]

【林木遺伝資源保存林画像

データベース】

各林木遺伝資源保存林の地況・林況
立木の調査野帳を検索表示できる
データベースを作製しています。
希望者にはCD-ROMで配布しており
ます。

現在は配布しておりません。

3 代表的なスギの林木遺伝資源保存林

[名古屋スギ3林木遺伝資源保存林]

伏状性の強い希少品種のイボラスギが群生する天然生林であり、スギの天然更新は良好です(写真1)。

所在	岐阜県郡上郡白鳥町 北緯35°54 東経136°49	井洞国有林26い、27い林 小班
地況	面積：9.3ha 標高：850m～1060m	温量指数：64 降水量：2650mm/年
林況	立木 スギ、平均胸高直径：44cm 密度・材積：410本・980m ³ /ha	稚幼樹 スギ：3750本/ha 下層植生：ヒメモチ・ヤマソテツ



写真1 名古屋スギ3林木遺伝資源保存林

[大阪スギ・ヒノキ・トチノキ7林木遺伝資源保存林]

氷ノ山後山那岐山国定公園特別保護地区、特別母樹林に指定されています(写真2)。

所在	兵庫県宍粟郡波賀町 北緯35°16 東経134°31	音水国有林105に林小班
地況	面積：48.5ha 標高：910m～1180m	温量指数：99 降水量：1946mm/年
林況	立木 スギ、平均胸高直径：45cm 密度・材積：380本・888m ³ /ha	稚幼樹 スギ：2000本/ha



写真2 大阪スギ・ヒノキ・トチノキ7林木遺伝資源保存林